

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径

12月号

2011
DECEMBER
No.38

今月のこぼ

良薬は口に苦し

自分に役に立つことや、良い忠告や注意は耳に痛いということです。良薬は苦いものです。飲むと病気を治してくれます。これと同じように、忠告や苦言に従って行動すると、いつか良い結果が出てくるものです。

今月の記念日

カレンダーの日(12月3日)

明治政府は「明治5年12月3日を明治6年1月1日とする」と太政官布告を出し、それまでの陰暦から太陽暦に改めました。この日を全国団扇子カレンダー協議会が昭和62年に「カレンダーの日」と決めました。



国士館大学教授
北 俊夫先生

今月の
テーマ

いま、求められる授業力とは何か

- 教師の授業力は、単に子どもの学力向上のために求められるだけではありません。子どもの人間形成に深くかかわる重要な資質能力です。
- 授業力を向上させるとき、「不易と流行」や「内容(何を)と方法(いかに)」の視点から取り組むことが大切です。

何のための授業力なのか

いまなぜ、教師の授業力向上が求められているのでしょうか。それは端的に言って、子ども一人一人に確かな学力を身につけ、豊かな心をはぐくみ、健康な体をつくるためです。授業力と言えば、国語科や算数科など教科の指導を連想しますが、子どもの成長・発達にかかわる教師の働きかけのすべてが対象になります。道徳や総合的な学習の時間、学校行事や学級活動などにおいても授業力が求められます。

教師は教えるプロです。分からない子どもを分かるようにすること、できない子どもをできるようにするところに、教師の役割があります。学習意欲の低い子どもに関心をもたせ、やる気を育てることも教師の役割です。

教師は子どもの人間形成、人格形成に深くかかわっており、そのために求められているのが指導力であり広義の授業力です。こうした授業力は一朝一夕に習得されるものではありません。絶えざる研修によって実現され、その意味で教師修行であり、教職に就いている間、一生の課題です。時には人間としての修養も必

要になります。

教師の授業力は、子どもを成長・発達させるために教えるための知識や技能、技術だと言えます。そこには教師の人間性が投影されます。

「不易と流行」の授業力

教室にコンピュータや電子黒板など新しい教育機器が導入されています。黒板とチョークだけで教える時代ではなくなりました。習熟度別学習やチームティーチングなどの指導形態も取り入れられています。これまでの指導に対する固定観念を変えることも求められています。本年度からは、高学年に外国語活動が新設されました。

こうした新しい課題に対して、研修などを通じて新しい知識や技術などを習得し、授業に役立てています。これらは時代や教育環境の変化に伴って登場したものであり、これらの課題に必要な授業力は「流行」の側面と言えるでしょう。

一方、わが国の学校教育には従来から重視されてきた「不易」の授業力があります。それは、例えば教師の発問や指示の方法、板書構成のあり方、子どもの学習活動の構成の仕方、子ども理解の考え

方や方法など、授業を構成しているあらゆる要素にあります。

私たちはどうしても新しいことに関心が向きがちです。教師の授業力を考えるときにも、「不易と流行」という原則を踏まえ、教師としての資質能力を多方面から習得したいものです。

「何を」と「いかに」を対象に

学校は意図的、計画的、組織的な営みの場です。いかなる教育活動(授業)においても「目標」が設定されます。これは「何のために」という授業のゴールを明確にしたものです。「目標」は「内容(何を)」と「方法(いかに)」を一体化することによって実現されます。これは授業の基本原則です。

特に小学校では、「いかに」指導するかという方法論に偏った教材研究が多く見られます。これまでの校内研修は、指導方法に関することが中心でした。そのため子どもの学習活動が重視され、楽しい授業が展開されています。こうした授業力を習得することは大切なことです。

ところが、子どもたちは楽しく生き生きと授業に取り組んでいるのですが、何を学んでいるのかがハッキリしない授業に出会うことがあります。学習指導案にも、学習活動や発問などは計画されていても、指導する「内容」が示されていないことがあります。

授業を行うとき、「いかに」指導するかという方法とともに、その授業で「何を」指導するのかという内容をきちんと押さえておきたいものです。

教えて北先生

整理・整頓できない子ども

Q. 教室で着替えた衣類を散らかしただまにしている子どもがいます。また、机やロッカーの中もきちんと整理・整頓されていません。そのため必要なときにとっさに用意できないこともたびたびあります。このような子どもには、日頃からどのように指導したらよいのでしょうか。

A. 整理・整頓する能力は家庭での躾け方も深くかかわっていますが、学校で指導することによって徐々にその方法や能力がついていく場合があります。例えば次のようなことを繰り返し指導します。

学用品などの置く場所を決めさせます。習字道具や裁縫箱、絵の具入れなどはロッカーにしまわせます。体育着はふくろに入れて、廊下や机の右側などに吊すようにします。整理箱を用意して、ノートや教科書、定規やコンパス、筆箱などの置く場所を決めさせます。しまう場所を決めさせることがポイントです。

散乱しがちなもののひとつにテストやプリント類があります。教科ごと、種類ごとにファイルを用意して、綴じさせるとよいでしょう。同じものはひとつにまとめさせるようにします。

整理・整頓しておく、必要なときにすぐに出せることだけでなく、落ちついて学習できることも指導します。時間をかけて繰り返し指導することが何より大切です。教室の戸棚や教師の机の上など教師自身の整理能力も問われます。



教育の動向

不登校の追跡調査

各教育委員会や学校において、不登校の児童生徒の問題は依然として最重要課題です。中学校では特に深刻ですが、いまや小学校でも対岸の火事ではありません。

文部科学省は、この8月に「不登校生徒に関する追跡調査研究会」を設置しました。研究会設置の趣旨は、不登校の未然防止や、不登校児童生徒への支援のあり方を検討するための基礎資料を得ることにあります。

具体的には、過去に不登校であった者に対して、不登校当時の様子、

中学校卒業後の状況、現在の状況について追跡して調査するものです。

調査はまずアンケートによって行われます。研究会で調査項目を検討したあと、教育委員会を通じて各学校に協力依頼され、調査はAとBの2種類のアンケートで、本年度中に実施されます。調査結果は、主に統計処理され分析されます。来年度はインタビューによる調査項目を検討し、その後Cの調査が行われる予定です。

不登校経験者についての状況を多面的、継続的に把握し、総合的に分析・検討されたあと、報告書としてとりまとめられる予定です。



コラム 北先生の授業力向上術

授業の公開①

新しい学級を受けもつと、学習ルールを確立することから始めます。特に発言力のない子どもに発言させることを重視します。つなぎ言葉を使ってできるだけ長く発言したり、先に発言した子どもにつなげて発言したりすることを重点的に指導しました。これは6月半ばの日曜参観日までの目標でした。

授業力をつけるために、私は様々な授業研究会に参加し、授業のあり方や方法を学びました。しかし、もっとも身近な方法で、即効性のある方法は他の先生方に授業を見てもらうことでした。校長や教頭、同僚の先生だったり、時には他校の先生方だったりしました。

教室に参観者がいると、授業者は

いつもより緊張します。発問や指示など言葉かけを吟味し、無駄な言葉がなくなります。子どもの発言を大事にし、子どもを褒めます。たとえ外れた発言であっても、その場に生かそうと努力します。叱ったり排除したりすることはありません。子どもたちの取り組む姿勢も変わります。担任に恥をかかせまいと、一生懸命に頑張ってくれます。

こうした良好な人間関係の中で子どもたちは発言力をつけ、教師には子ども一人一人を生かし伸ばす授業力が身につけていきます。授業を第三者に公開する(開く)ことは、子どもを育てる特效薬です。同時に、授業力を向上させる即効薬だと言えます。

私が授業力をつけ、子どもを育てるために取ってきた手だてのひとつは、授業を参観していただいたことです。

INFORMATION

若い先生に伝えたい!!

子どもの学力をつける学習評価

◎著者 北 俊夫
◎定価 1,890円
(本体1,800円+税)
◎発行 株式会社文溪堂
B5判 140ページ



言語活動は授業をどう変えるか -考え方と実践のヒント-

◎著者 北 俊夫
◎定価 998円
(本体950円+税)
◎発行 株式会社文溪堂
A5判 112ページ

北俊夫先生の
新刊です!



編集後記

最近のカレンダーには日曜始まりのものと月曜始まりのものがありますね。皆さんはどちらを使われますか? 私は月曜始まり派。週末のお休みは、1週間しっかり仕事したことへのご褒美と考えたいからです。今年も残すとこる1か月。カレンダーの準備はお済みですか?

(H記)



企画・編集: ぶんけい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂
発行日: 2011年12月1日